

令和5年度 (一社) 犬山祭保存会理事会 第6回 議事録

●日時

令和5年11月23日(木・祝) 19:00～20:30

●場所

IMASEN 犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房 2F

●欠席者(敬称略)

【常任理事】副委員長(大澤、長谷川、前刀)、伝統文化副委員長(丹羽)、企画広報副委員長(林)、からくり文化振興部(加藤)

【理事】枝町組理事(土屋)※代理出席、外町組理事(伊藤)、坂下大本町組(中村)、内田町組理事(若山)

【その他】針綱神社宮司(岡地)

●議事

I. ①会長挨拶 ②報告事項

II. 議題

① 秋の犬山城下町まつり総括

② 次年度犬山祭に向けて

③ その他

●配布資料

① 秋の犬山城下町まつり 車山曳き廻しについて

② 秋の犬山城下町まつり からくり町巡りについて

③ 来年度犬山祭に向けて、引綱体験について、その他

●議事内容

I.

① 会長挨拶

- ・会長：今日は主に、秋の犬山城下町まつりについての皆さんからのご報告を聞きたいと思っている。あれから、城下町まつりについて、市民の皆さんからとてもいい声を聴いた。観光客からも絶賛の声を聴いた。この主旨をご理解のうえご支持をいただいた皆さんのおかげである。

城下町まつりを行う意義については皆さんとも検討したが、一年に一回の祭りというだけでなく、祭関連の事業をする中で、犬山祭の1つの訓練であり、力がついてくるものであるということで、車山の運行やからくりのお囃子を秋に行うということも良いことではないか、という考えでやっている。その目的は十分達せられたのではないかと思う。

からくり町巡りについて、私も当日は各町内を見たが、普段の祭とは異なりからくり町巡りではからくりを下におろすので、祭とは違う角度で楽しめる。一般の市民の方、観光客の方も違う角度で見ることができて、夢中になっていた。また、ある町内ではからくりの後ろに幕がないため、からくりをしている人たちを初めて見て、そこに写真を撮ったりして、からくりをしている人の様子がとても面白かった、というご意見もいただいた。こういったことも、一つの情報公開の意味があったのではないかと思う。そういった喜びや発見を多くの人に提供できたと思う。

今回の秋の犬山城下町まつりを土台にして、来年の祭に向けての議論に入っていきたい。我々は祭をやるのが第一義であり大切なことであるが、祭を通してまちづくり、コミュニティを支えていくという役割を果たしていきたいと思っている。更なるご支援のほどよろしく申し上げます。

報告事項

- ・魚屋町：赤幕と中幕の修理が最終段階に入っている。来年3月には町内に納品される。来年の3月17日の10時半から、魚屋町車山蔵前で赤幕中幕修復披露のお祝いと完成披露式開催の予定。来年にはまた皆さんにもご案内する。
- ・専務理事：9月に行った日本の祭シンポジウムの報告書を配布させていただいた。また、10月に行った技術者会議の報告書も、完成次第配布する予定。

また先週日曜日に、知多半島の内海に、半田の立川美術館の方が南知多町でイベントをやるということで、会長と行ってきた。南知多から北上すると曳山とからくりの宝庫の地域である。内海の岩谷観音堂でイベントが行われ、玉屋さんが5年前に修復したからくり人形の披露式があった。知多半島は隠れた祭の原点が多くあると実感した。また、お囃子方がほとんど女性であった。

- ・会長：南知多町のお囃子で、犬山祭の町内のものとほとんど一緒の曲があった。日本人共通の通奏低音であり、底の方で繋がっている文化であると思った。また、我々の祭ではお祓いの時に使う幣帛を用いるが、南知多は海の文化で、漁船なので吹き流しであった。こういう自然環境によって祭の形が変わるということを感じた。

シンポジウムの報告書もまた見ていただきたい。愛知県の行政があいち山車まつり日本一協議会を作って、そこで至学館と組んで、11回やってきたものである。今回私も基調講演を行わせていただいた。私にとっての集大成で、祭とはこういうものであり、私の心の中にもっとも大きく残っているふるさとの文化としての祭について、お話をさせていただいた。

・

II. 議題

① 秋の犬山城下町まつり総括

- ・会長代行：秋の犬山城下町まつりの総括ということで、21日の車山曳き廻しについては8町内に参加していただいた。
- ・てこ委員長：秋の車山の曳き回しにご協力いただきありがとうございました。こちらには特に事故やケガの報告もなく、無事終わって良かったと思う。
- ・伝統文化委員長：からくり町巡りにご協力いただきありがとうございました。当日の朝の集合について、連絡が不徹底であり申し訳ありませんでした。

天候も良く、二度公演をやるということで、常に犬山のどこかでからくりをやっている、ということ今回やってみた。各ご町内にはご苦勞もあったと思うが、犬山に来られている方には好評だったと思う。次回はもっと練り直し、もっとやりやすく、皆様に楽しんでいただけるようにしていきたい。

- ・会長代行：両日についてご意見ご感想をお願いします。
- ・魚屋町：からくり町巡りについては、以前からずっと続いていることで、一週間前から中山を中心に練習した。今回はお囃子も当日やって、子供の太鼓もやらせていただいた。一回は大勢の方がみえて、二回目も時間の設定をしていただいたため、かなり多くの方に見ていただけた。

マイクについて。当日はマイクは必須であるという町内の判断があり、急遽町内のマイクを使った。やはりマイクはからくりの説明に必要であるので、今後は準備をお願いしたい。

21日については、今回は参加しなかった。事前の準備について、どういう内容とどういう工程でやるのかを、7月・8月にはある程度決めていただき、町内で議論して参加の可否を決めていきたいので、来年以降も車山を出すということであれば、総会が終わって10月の工程に向けてすぐに準備を始めて町内に意見を下ろしていただきたい。

- ・新町：自町内は日曜のからくりのみの参加。サブ公演について、自町内でもあまり理解できず、二回公演という形の方が良かったかと思う。また自町内のからくりの性質上、二回やる上では、人形の面被りをして、乙姫に玉手箱を持たせないといけないし、すべて曝け出してしまうことになる。この時間内では、一回しかできない、二回目に間に合わないということで、急遽一回のみの講演となった。回数について明快な形にしていただかないと、スタッフに十分伝わらなかった、来年以降はご検討いただきたい。
- ・枝町（理事代理）：からくり町巡りについて、当日は中で笛をやっていたので状況については伝聞になってしまうが、例年通りに皆様に見ていただき、楽しんでいただけたのではないかと思う。自町内でもメインとサブ公演との明確な違いが分からず、サブ公演は何が違うのか、何をすればいいのかという質問を受けた。そのあたりが曖昧に伝わっていたのではないかと思う。

町巡り自体については、毎年やっていることなのでそれでよかったのではないかと思う。

- ・下本町：からくり町巡りのみの参加となった。自町内では世代交代をしており、若い人からくりをやってもらっている。当日では力の入れ具合などで、鉄棒の中の糸が切れたりなど、色々勉強の多いからくり町巡りとなった。

車山曳き回しについて、やはり早く決めていただけるとこちらでも動きやすいので、よろしくお願ひしたい。

- ・余坂：両日参加させていただいた。当日は天気がよく、雨で予定通りいかないという事もなく、車山曳き廻しも予定の時間通りに行わせていただいた。

からくり町巡りでは、第一回目の公演ではたくさんおみえになって、整理に困るところもあった。28：40二回目の公演の主旨についてご存知でない方も多く、人がいなくなってしまう所もあり残念だったと思う。

- ・本町：からくり町巡りは無事終わった。先ほど会長のお話にもあったように、後ろが見えたということで、観客の方が喜ばれるということであれば、事前に一体ずつ動かすところを見せてから本番に入っていくのも良いのかもしれないと思った。来年あるのであればまた検討したい。

自町内でもからくりのメンバーが入れ替えの時期である。若い人が入って、まだ慣れていないので戸惑って、躓いたところもあった。経験や練習をしないとスムーズに行かないと感じるところもあった。また練習してもらおうようお願いしていく。

- ・練屋町：からくり町巡りについては毎年やっているのでも、そつなくできたと思う。見ている人の流れを見ると、二回目公演の時、時間を表示しておくのは良かったと思う。曳き廻しについては、自町内は途中でコース変更があり、想定外のことだったので、連絡がうまくいかず、他のご町内にはご迷惑をおかけしたと思う。

- ・名栗町：曳き回しは問題なくやれた。他町内の運行が変更になったことはあったが特に問題はなかった。からくり町巡りは、従来土日の二日間に分けてやっていたのが今回一日で二回公演ということで、あわただしい感じがあった。自町内はどんでん館でやるので、お客様は比較的多いが、各ご町内の車山蔵でやる時は、観客が少ないこともあるとのことなので、そこはまた考えていただきたい。

- ・中本町：からくり町巡りは、例年のことなのでスムーズにできた。時間や公演の回数についてはまた検討していただければ良いのではと思う。自町内は毎年上から操っていることも見ていただけるが、今回は幕を外して行った。面白いということで、来年もやることを検討している。

車山曳き回しについて、自町内は予算がなくて困ることがあった。てこや若衆に、弁当も出ないがやってもらえるかと頼んで、やると言っていただけた。町内の大多数は秋に何故やらなければならないのか、という意見があったが、てこや若い衆の方ではやると言ってもらえたので、今回参加した。予算についてなんとかしていただきたい、また何のために秋の祭をやるのかをはっきりさせていただきたい。そして早く準備をしていただきたい。最初から言うていただければ、もっと準備はできたと思う。

- ・鍛冶屋町：自町内でも、役員会の中で、何のために車山を出すのかという話があった。こちらからは、保存会50周年記念であり、全国の山鉾屋台の技術者会研修会があり全国から関係者がみえるから、という話もした。皆さんも同様に、もう少し計画を早く、こうやるということを示してしていただけると町内でも話し合いが出来たのではないかと思う。来年度については、どういう目的かということを中心に説明していただき、やるということであれば、計画を出していただきたい。自町内としては、来年は少し厳しいという声も出た。

からくり町巡りについては、メインとサブの二公演ということで、自町内は一回だったが、町巡りで13町内を見ていただくということであれば、メインを中心としてスケジュールを決めていただき、サブについては、むしろ時間を決めずに自由にやっておいたらどうかと思う。どんでん館内は4つあるので、片方がサブでやって片方がメインをやるというようなスケジュールでは本末転倒なので、そういった点も考慮していただき、メインを中心としてスケジュールを組んでいただけると有難い。二日間天気も良かったので良かったが、救急車が入ってきて、一カ所で40分近く車山が止まったことがあったが、それ以外はスムーズに予定通りいった。

- ・寺内町：曳山について、車山を解体してあったので、車山組みから曳き回しまでの若い人の経験ができたのは良かった。当日は、昼からの提灯の準備がタイトだった。朝からの方が楽だったと感じた。

からくりは、自町内は朝の一回目は今仙さんで、二回目は町内での公演ということで、からくりは充実していた。移動についても問題はなく、二回目までの時間が空いたので、色々なことができて良かった。

- ・副会長：土曜日の車山組みをやったが、タイトな時間で大変だった。からくりが終わってから解体ということで、町内からは、年二回は厳しい、という空気が多くあった。根強い反対者も多くて、それを調整するのが大変であった。

からくりについては、外町は中心部から遠いので、からくり町巡りを始めたころは町内のギャラリーしかいなかったが、継続してやってきたためか、最近は増えてきた。

また、からくり公演が15分から30分で一回分が終わってしまうのがもったいなかったのではないかと思う。何か工夫が必要であったと思う。

- ・副会長：土曜日はお客様も想定より少なく感じた。提灯を点けて曳きこんだが、昼車山に提灯を点けて曳き込むのは異様な感じがあった。各町内の時間的な事情があったとは思う。

土曜日に車山を組んで、曳き込んで提灯を付けて、その後皆さんが提灯を一斉点灯しますし、そして翌日からくりをやって、車山こわしをするという、この二日間について外町さんには頭が下がる思いです。

- ・会計：土曜日の車山は、神社のところで警備をやっていたが、ケガもなく何よりだったと思う。日曜は、からくり町巡りは参加できていないので申し訳ない。
- ・熊野町：車山曳き廻しでは、愛・地球博の時の前哨戦以来に名栗町に入った。若い綱割や後見は名栗町を経験したこともないので、指示を出して無事に終わったので良かったと思う。

からくり町巡りについて、一回目はお客様も結構いらっしゃったが、二回目はゼロで、身内の者を集めて行ったという状況だった。二回目をやるなら、もっと案内をしていただきたい。また、からくり会場の看板も、自町内の箇所の時間が違っていた。そういったことも検討課題かと思う。

- ・てこ副委員長：ケガ無くやっていただけありがたかった。
- ・てこ副委員長：土曜日について、ケガなく無事にやっていただき良かったと思う。
- ・会長：皆さん貴重なご意見をありがとうございました。理事さんは町内をまとめるのは大変だと思う、感謝しております。それぞれの委員会の各リーダーたちもボランティアであり、年齢的に働き盛りである。十分に時間をとって検討するというのも現実問題としてなかなか難しいもある中で、伝統文化、てこ、企画広報と皆さんよくやって下さっている。お互いに感謝しながら、お互いの仕事をしっかり果たして大きなことができるので、感謝し合ってやっていかなければならないと思う。

もっと早く計画を発表してほしいとのご意見もあったが、ごもっともだと思う。ご町内の意見をまとめるのは難しいと思う。今回の全国山・鉾・屋台保存連合会の研修会は、すでに予算化がされている段階で、新年度に入って京都の方から、なんとか犬山にやってほしいとのご依頼があり、それだけの信頼性をもってのことなので、お受けした。早く計画を立てることができなかつた一因ではあるので、お詫び申し上げる。

ユネスコの無形文化遺産の33の保存会の動きについてお伝えする。全国で33の団体があるが、それぞれが自分達の祭りのことしか考えていないので連盟としての活動が不活発である。愛知万博の時、愛知県下の100両揃えをやったが、あれは犬山市の力であった。そこで犬山がリーダーシップをとって、愛知県の5つを固めている。愛知5、岐阜3、三重3で合計11のグループがあるが、この東海三県で独立して支部を立ち上げようということを、岐阜の高山の会長と予定している。年度内にまとめて、来年度から全国の中で東海三県のみ先行していこうという会合を重ねている。高山の寺地さんに会長をお願いする予定。

何をやるかという、観光産業と結びついて、ネットワーク化して内外の観光客に日本の伝統文化を見せてあげようというものである。祭は、全ての日本の文化がこもっている。祭を見るのは、日本そのものを見るようなものであり、犬山祭には犬山のすべてが入っている。そのような動きがあるということも頭に入れておいていただきたい。

ご町内の理事の方はなるべく固定をしていただきたいという希望がある。町内の理事、各部会の若い人たちと上手にミックスすることで、日本一の犬山祭が出来上がっていくと思っている。

からくり町巡りについて、それぞれの理事さんから、次はこうしよう、といったアイデアが出てくるようになると良いと思う。また、余坂について、車山組みの資料を作られた。克明に写真や絵図も用いたレベルの高い冊子になっていた。各町内に素晴らしいところがある。町内同士で情報交換しあって良い意味で刺激しあい、保存会全体のレベルを高めていければいいと思う。貴重なご意見をありがとうございます。

② 次年度犬山祭に向けて

- ・会長代行：次年度に向けて、企画の段階でご意見を参考にしながら良い案を練っていきたい。よろしくお願いいたします。

次年度の犬山祭について、役所から、広報の締め切りの都合上、1月中頃にはどのような形でやるかという内容を提示してくださいという要望が来ている。てこ委員会の方である程度案はできているとの事なので、話をお願いします。

- ・てこ委員長：秋の車山の曳き回しの情報を早く開示していただきたいとのことご意見をいただいたが、予算の目途が立って情報が開示できたら、皆さん車山を出しても良いと言うことでしょうか。

来年度の祭について、今まで通り駅前組と城前組の二つに分かれてやっていくということをやっている、皆さんのご希望の、土曜日に城前広場から13輦出すということがかなわなくなってしまうので、保存会50周年の節目ということで、この春に城前から土曜に13輦出すのはどうかということで計画したいと考えている。

本町交差点の13輦全部のどんでんは難しいと思うので、本町交差点と城前で分かれる形でどんでんを行う予定。本町交差点は13輦全部が通過していただけないと各町内に帰って頂けないので、13町内とも、本町交差点をどんでんした町内は城前を車切り、城前でどんでんした町内は本町交差点で車切り、という形で帰っていただくことになる。そのように計画していく予定、よろしくお願いいたします。

- ・会長代行：今この様に計画しているとのことなので、各理事さんは何かご意見がありましたらお願いします。
- ・新町：13輛に出すというのはどれくらいの可能性があるのか。
- ・会長代行：そのように皆さんがやるということであれば、そのように動くということである。
- ・てこ委員長：春に13輛出したいとのご意見があったので、その意見を汲んでいる。
- ・安全対策は大丈夫なのか。
- ・てこ委員長：遠藤硝子のところで駅方面に人を流していただき、本町交差点に観光客を流さないようにしていただきたい。駅から来る方も鍛冶屋町から練屋町の方に誘導して本町交差点に観光客があまり来ないようにしてもらわないといけない。本町交差点に滞留している方はほとんど動かないので、そのようにやるしかない。

城前広場の安全対策について、車山が並んでいる反対側はバリケードを立てるしかないと思っている。

- ・専務理事：城前広場の夜の安全対策は、十分考慮したとは言い難いと思う。
- ・会長代行：また実施計画を立てて案を早急に出して進めていく予定。来月には案が出来ていると思うのでそこで皆さんにご検討いただくという形にしたい。

決まれば広報に実施要項として交通規制等も出ると思うので、そのように進めていきたい。

来年度の実施の可否について。各理事からもご指摘があったように、目的をしっかりと出してほしいということであるので、内容についてまた次回理事会にて出させていただきますので、各理事さんには町内に戻られてまた検討していただくという形で進めていきたい。よろしくお願いいたします。

③ その他

- ・新町：お願いとして、まず、自町内の幕の修復を町内で考えている。順番としては幕の修復が一番最後になる。予算が許されるのであれば、龍の爪や角がない、鶴の

足が折れた状態であるとか、10数年後のことではあるが、幕、彫り物の修復に、最後となるが立候補させていただく予定。

また、今回の秋祭で、保存会50周年に合わせて曳き回しを行うという事前告知がなかったというご意見があったが、来年の市政70周年に合わせて、また車山を出す、曳き回しをするといった予定が現時点であるのかどうかをお聞きしたい。

また3点目に、秋祭りの議論の時に、参加費の見直しを検討いただけたらというご意見があったが、それに同意であり、それに合わせて、町内にいただいている祭の45万でいただいているが、このお金について、手当には出せない、飲食も無理ということで、もう少し限定的に、半分くらいは自由に使えないか、といった議論があっても良いのでは。3年ほどコロナ禍で祭をやっていない間、町内費の蓄えはできた。しかしこの4月に祭をやって、思いのほかお金を使っている、ということが分かった。飲食・弁当代等で、3・4年前なら500円・600円で済んでいた物が、今では800円・900円ほどになっている。これを捻出するために自町内の町会費が上がっている。一律45万で賄って町内でやっていたが、一番の問題がてこさんの弁当代であり、タイムスケジュールが綿密に決まっているので、一時間で家まで行き来できない。外部から来ている方も多く、そういった方々に、参加費、弁当費も自分たちで全部負担してほしい、ということはなかなか言えない。もう少し45万の中でそういった手当や弁当代等として半分ほど認めていただくようなことはできないか。てこや、若衆も会所場で困っている。会所場も、お菓子を食べたり、先輩からのしきたり等を学んでいく非常に大切な場であると思う。場ならしがなくなってしまったし、会所場をリモートでやったら経費もかからないのではという意見も出たが、やはりそれではだめだと思う。なんとか運営費の中でそのように使える部分をなんとか認めていただけないか、という意見である。

- ・会長代行：また役員で検討したい。
- ・会長：市から出る45万を、飲食に使っては絶対にいけない。議会で大問題となる。
- ・新町：喉が渴いた人間に、水を与えてはいけないということか。

- ・会長：飲食代まで市から税金で出る祭やイベントというものはない。皆さんが自分たちで集めている。

新町では、てこに1000円ずつの入会費を集めておらず、町内から出しているという話も聞いた。会費制は我々が議論したうえで出した結論であり、一人一人の会員からいただいた1000円で犬山祭をやろう、ということが一般社団法人犬山祭の会則である。

一度それは町内で議論をしてきていただきたい。飲食費には税金は使うことはできない。自分たちで対応していくことによって、町が強くなっていく。てこでも集めることはできる。てこ委員会や伝統文化委員会に実状を報告していただきたい。軒数が少ない町内なので事情は分かる。

- ・新町：例えば試楽で、16時ごろから提灯を付けるが、食事時間のために町内に帰ってまた集合するので、その食事時間の一時間半のために夜の運行に間に合わない、という町内判断をしたら、そういった運行の変更はできるのか。
- ・会長：そういった事情があるということや、運行の順序を変えて欲しいといったことは、てこ委員会に相談していただきたい。
- ・専務理事：市から出る45万の公金については、保存会でなく市から出ている公金なので、保存会ではなく市に掛け合っていたかかないといけない事である。保存会として市に掛け合うこともできない。飲食費に当てるのは論外である。
- ・会計：人件費と食費は出ないということで議論は何年もしてきた事である。総務委員会の助成金に関する約束の中で、飲食や、祭に関する人件費は出せないと書かれており、そういったお金として歴史まちづくり課からいただいている。そのため、ご町内として飲食や人件費について、歴史まちづくり課に相談していただき、資料もいただけるので、その上でご検討いただければと思う。
- ・寺内町：市の助成金45万について、保存伝承費として使うということで、春の祭でちょっとした修復費用や消耗品等を使った時、その中でさらに秋の運営もするとすると、やはり厳しくなるし、ちょっとしたことも直せなくなってくる。車山を修

復しようと思ってもなかなか45万からは使えない。町内として春と秋の二回を運営しようと思うと厳しい。もう少し考えていただけるとありがたい。

自町内は漆を塗り直してもう30年超えているので、また漆を塗ろうと思っても、10年、20年後となって、初めて漆の修復の順番に入った時、塗り直してから50年経っていることになり、初めて漆を塗る順番に入る時、これから先に子供世代が漆の修復をすることとなると、町内でやっていけなくなる。45万を保存伝承費にあてて使って行かないとこの先苦しい事に成る。

- ・会長：今年の修理委員会でも話題になったのが、食べる物や着る物など、日本文化、日本的なものほど価格が上がっている。また職人も少なくなって大問題になっている。今後犬山祭に付随するものの値段が上がっていくのは間違いない。これを行政で手当していくのが文化レベルの高いところである。

しかし個人の飲食については自力で、自町内で賄う、ということになる。これは個人で払うということではなく、寄付を募ったり、クラウドファンディングをやるという方法もある。人通りが多い本町通りで寄付を募ったり、てこや伝統文化の若い衆はそれぞれネットワークを持っているので、皆で寄付を募っていくということである。困ったら助けてくれる人は必ず出てくるので、そういった強さも保存会で養っていかなければならないと思う。価格が上がっていくのは犬山市の課題でもある。お金の使うところを、公のものと個人的なものとの分けなければならない。

- ・余坂町：新町さんのお話は分かるし、自町内でも、てこさんに弁当も出させてもらっているので経費がかかる。45万の中で貰えない分は自町内が負担しているしこれはどこの町内でもそうだと思う。市の公金というのは分かっているが、必要なものは必要であるので、そのところは理解していただけたらと思う。少しでも修理などで、例えば今年は45万のうち40万しか使わなかったのだから、来年に貯金として残しておくとか、そういった積み立てを認めて欲しいということをお願いできないか、ということをお願いできないか、という救済措置のお話をされているのではないかと思います。

- ・会長代行：私も町内にいるので、皆さんの仰っていることも分かる。例えば協賛金をたくさん集める事によって財力が保存会で出れば、保存会の中でそのようなこと

が出来るようにならないかということも考えている。委員会内部の組織における従来の同じような金額だけでなく、裾野を広げていくことも必要であると思う。広く浅く取れば、その分町内に確保できるお金ができるので、そういう方向で企業協賛をこれから始めていくので、理事の皆さんのご協力をお願いしたい。

- ・専務理事：例えば熊野町では町会費が500円で、てこの弁当は自腹でやっている。それぞれのご町内の事情もおありだとは思いますが、町内そのものもマネージメントも必要になってくるところがあると思う。
- ・会長：以前西琵琶の祭に行った時、観光客が町内に祝儀をしていた。工夫によって、お金を出してくれる人もいる。京都でも、建物の二階から梯子で渡して、観光客を山に載せることでお金をとるなど、そういったことを皆で考えて行かなければいけない。それが町を強くしていく。課題はあるし私も頑張らなければならないが、飲食費についてはやはり一線を引かなければならない。今回、このように理事さんに発言していただいたのはとても良いことではあるが、建前を崩すとまた線引きなどが難しくなってくる。
- ・会長代行：常任理事会でも今の議題も含めて改めて検討させていただく。

てこ委員長にも企画案を出していただいて、12月に広報に乗せるような案を出していきたい。

次回理事会は12月16日（土）の予定。色々なご意見ありがとうございました、参考にさせていただき、企画委員会で煮詰めさせていただく。

●次回日時

令和5年12月16日 19:00～

●次回場所

からくり館二階

●記録日

令和5年11月27日

●記録者

竹村

●署名

石田芳弘

多和田兼道